

アンチ ・ドーピング 知識調査

この度はお忙しい中調査にご協力いただき誠にありがとうございました。
調査結果を下記の通りまとめましたので、ご一読ください。

結論

アンチ・ドーピング教育を受ける回数が多いほど、知識の定着が期待されますが、教育を3回以上受けても、正答率が80%未満であることがわかりました。この課題に対処するため、教育トピックスのうち正答率が低いものを重点的に学ぶことが推奨されます。

知識テストの設問と正解肢

お答えいただいた知識テストは巻末に答えが掲載されています。

<知識テストの評価> (報告書P33)
合格指標：80% (26問) 以上正答
※正答率 30%未満 (10問) は十分理解できていないと判断

アンチ・ドーピング教育について

JSPOアンチドーピング教育ページ

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/doping/tabid1395.html>

JADA国体関連ページ

<https://www.realchampion.jp/who/kokutai-education.html>

+ α 今後の教育の量・質の向上に向けて
上記の教材と共に、JADAのHPに掲載の教育トピックスの中で、特に正答率に結び付いていない教育トピックスを学ぶことを推奨します。

JADAクリーンスポーツ・アスリートサイト

(WHAT～トピックスから情報を探す)

<https://www.realchampion.jp/>

※2021Code 11項目の教育トピックスを7カテゴリーに分類し提示しています。

今後は本結果をもとに、アンチ・ドーピング教育の効果検証や、日本スポーツ協会からの発信内容の検討をしてまいります。

↓さらに詳しく知りたい方は裏面もご覧ください。

問い合わせ先：

日本スポーツ協会スポーツ科学研究室 spolab@japan-sports.or.jp

さらに詳しく知りたい方へ



調査で明らかとなった ポジティブな結果

教育経験1回よりも2回、2回よりも3回のグループの知識が高い結果でした(報告書P42)。

(過年度のアスリート対象調査と同様の結果を得られました)

[解釈]

アンチ・ドーピング教育は、経験回数が多いほど知識の定着が期待されます。



調査で明らかとなった 課題点

教育経験を3回以上有しているグループであっても、知識テストの正答率は合格指標(80%)に達していませんでした。

[考えられる要因・課題]

アンチ・ドーピング規程

(2021Code) 教育に関する国際基準に定められている11項目のアンチ・ドーピング教育トピックスのうち、正答率の低い項目が確認され、全体の正答率を引き下げました(報告書P41)。

[要因・課題への対応]

十分理解ができていない教育トピックスを重点的に学んでおくことが推奨されます。

正答率70～80%台の教育トピックス

2 アスリートの責務

3 厳格責任の原則

7 サプリメント使用のリスク

正答率30～50%台の教育トピックス

5 ルール違反の項目・

アンチ・ドーピング規則違反

6 禁止されている物質や方法

10 競技会外検査

11 Speaking up

(ドーピングへの懸念を声にあげる)